

科目名	成人聴覚障害			授業の種類	演習	講師名
授業回数	15 回	時間数	30 時間 1 単位	必修・選択	必修	配当学年 時期
【授業の目的・ねらい】 聴覚系、聴覚障害者等の基本的な知識、聴力検査の理論と種類、検査方法や技術、臨床的意義などを理解し、聴覚障害者に対するリハビリテーションについての理解を深める。						
【実務者経験】 大阪府立身体障害者福祉センター病院にて、言語聴覚士として耳鼻咽喉科領域リハビリの従事経験。						
【授業全体の内容の概要】 成人期における聴覚障害の特徴と評価・訓練・指導の基本的知識について理解できる。 情報補償と進学、就労への支援など、社会参加に向けた関連職種連携について理解できる。 国家試験に則した基礎知識を身につける。						
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 聴覚障害の特徴を理解し、典型的な症例について、リハビリテーションに必要な評価法、指導法を選択し、実施し、結果を評価できるようになる。						
回数	講義内容					準備物(教材)
1	ニーズの違いと指導（成人期）					
2	ニーズの違いと指導（中年期）					
3	ニーズの違いと指導（老年期）					
4	聴覚的手段（補聴器）					
5	聴覚的手段（人工内耳）					
6	その他の聴覚的手段					
7	視覚的手段（文字）					
8	視覚的手段（手話）					
9	視覚的手段（指文字、読話）					
10	触覚的手段					
11	聴覚活用（補聴器、人工内耳）					
12	聴覚活用に影響を及ぼす要因					
13	聴取レベルと訓練内容					
14	視覚活用（読話）					
15	コミュニケーション方略					
定期筆記試験						
【使用教科書・教材・参考書】 『標準言語聴覚療法 聴覚障害学』第2版 医学書院						
【準備学習・時間外学習】 授業前後の予習復習を要します。						
【単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など）】 試験の結果を100点満点として成績を評価する。 試験は定期試験のみ実施とし、 60点以上の場合に科目を認定する。						